# 往相廻向還相廻向文類について

## ――三經往生文類に關連せしめて――

日野　環

### (一)

親鸞聖人の御選述について、その性質上これを種々に分類して窺つてみると、その文體が漢文であれ和語であれ文類體をなすものが尤も重要な位置を占めてをる樣である。

御本典『教行信』は云ふに及ばず、略本にせよ、『二門偈』にせよ、聖人の教學の傳統と己證を窺ふに尤も重大である。これは和語の聖教についても云はれることであつて、『假名聖教』の編纂に於ても、『三經往生文類』が初頭に置かれてをる事を以ても、それの重要性を見るに足ると思ふ。而して聖人の信仰聞思の修慧が胎む本願なる「アイディヤ」が傳統を媒介として生活の實踐感覺に於て展開され來つたその樣態――自然に發應して顯れ來つたものが、二廻向四法・眞化二土の法相であると窺はれる。

かくみると、『三經往生文類』と『如來二種廻向文』（『往還廻向文類』）は必然的なる本質的關連があり、極言すればそれ等は一なるものであつて親鸞の「デンク・アイディヤ」としての本願が、現實に激突し、それに應現して三願眞假の相を互顯した――『三經往生文類』の略本の說相であり、體系である。しかもそれを攝受して止まない選擇の本願が大慈大悲の相を具現し來して本願の眞實を現行するところ――茲に『二廻向文類』の展開が必然である。現實を救ふものは往還の大悲に他ならぬ。この往還の大悲のうちに――時間なき永遠卽今に於

て、限りなく流轉する過現未の時を貫く久遠の願行を內感するであらふ。かくて、眞假の批判は、往還の大悲のうちに寂滅する。これ略本『三經往生文類』が、『二廻向文類』に包まれることによつて、廣本『三經往生文類』の宗教が生れる——卽親鸞の宗教であり、廣文類『教行信證』でもある。かくて廣文類に於て尤も少量に近い「眞佛土」が一切を包攝し、それを「我國」とする因行・大行が我を光攝する前に稽首するであらふ——『彌陀如來名號德』はかくて親鸞の胸にひゞいて來た。『名號德』の尾題のかわりに「南无不可思議光佛」と所歸の尊號を掲げてをられる。而してそれに左訓して「ナムハ・チヱナリ・フカシキハ・リナリ・クワウブチハ・キヤウナリトシルヘシ」とある。それは、救ひであり、救ひの世界であることを結示してをられる樣である。

人生の眞僞を三願の眞假に受けとめ、限りなき絕望を往還の大悲に同感して、包んで以て無邊の生死海を盡さむと願ふ、盡きざるの願行は大慈大悲の故であつて、卽ここに願成就の名號を信受するが如くである。かくて稱无如來名のうちに、難思・无稱の南无不可思議光佛に一なる身を感得せられたのであらふ、限りある身として、それに向つて往くことの幸であり歡びであらふ——略本三經往生文類——二廻向文類——廣本三經往生文類——名號德。

（二）

略本の三經往生文類を見ると「大經往生といふは…」と筆を起して正依の『大經』十八願文を始として『如來會』及『論註』の中から「信」「證」に關說する引文十種を引く。次に「觀經往生といふは…」と端を改めて正依『大經』の十九願文をはじめとして『悲華經』『往生要集』から彼此六文を引証する。次にまた端を改めて、「彌陀經往生といふは…」正依『大經』の二十願文を始として『如來會』、『定善義』『述文讃』から彼此六文を引用する。極言すれば大經往生として第十八願、觀經往生として第十九願、彌陀經往生として第二十願を以て代表せしめ得るのである。

然るに廣本はその冒頭の行文は略本にほとんど同一である。また觀經往生、彌陀經往生の引文も廣略二本に異るところがないが、大經往生については注意すべきものがある。卽略本では往還二廻向について關說するところなしと云つてよいが、廣本では往相廻向について眞實の行・信・証あることを說き、先ず眞實の行を說いて、そ

の證文として第十七願文、次に十七、十八二願成就の文を引き、次に眞實の信を說くに正依の『大經』の十八願文を擧げ『如來會』『論註』の文に及び一たん往相廻向を結び、次に端を新にして「二還相廻向といふは…」と書き起して『淨土論』を引き、次に『大經』の第二十二願を引き更に『淨土論』を引用する――この說意である。宗祖は二廻向を展開するにその基盤として第十七願を以てする。これが宗祖の方式である。

本來から云へば、三經の往生に關する文類それズバリとしては、略本の方式でよいと云ひ得る。然るに體系的に往生の根據を追求して、二廻向に及び、「行」より說示せねばならぬ事は、それは自明な事ではあるが、これは單に體系的論理的に追求した結果ではなく、現實の宗教的信仰の雜多的に當面した宗教的要求が先行してをつたものでなくてはならぬ。如來の二種廻向なくしては救はれ得ぬ現實の自であり他である事のそれに卽した本願の體驗があつた事と思はれる。――これが『二廻向文類』であると思はざるを得ないのである。略文類は建長七年すなはち聖人の八十三歲の作であるが、次の年すなはち康元元年――聖人八十四歲にして『二廻向文類』の選述を見たことは、かくなくてはならぬ。信の要求の必然からと思はれる。この自覺に於て略本が見なほされる時――廣本『三經往生文類』は必然であると窺はれる。

この三書の連關と云ふものは、文面の構造の關連と云ふ以上に、もつと深いものがこれに先だつてをり、宗祖の信に於て生きて來た如來の本願が、どうしてもかく顯はれねばならぬものがあつたかの樣である。これ等は一つのものであり、一つの動機であつたと推測されるのである。『如來二種廻向文』の解說者は（親鸞聖人全集・和文篇二七五頁）『二廻向文類』が『三經往生文類』の略本制作の次の年の選述であること及、その內容の構造よりみて、――『三經往生文類』の略本のさらに略本的な性格をもつているものであるから眞宗救濟の論理、三願眞假の意義を簡單に示して、これを門弟に分ち與へ、もつて法味愛樂の資に供せしめられたのでないかと想われると述べてをられるが――しかし私はこの意見に同じ得ないのである。『二廻向文類』は絕對に略本『三經往生文類』の意味內容の略本ではない。略本『三經往生文類』よりも、より大きな深いものであると思はれる。

## (三)

高田專修寺に『如來二種廻向文』なる鎌倉時代の寫本

がある。それは顯智上人の傳持本であり、宗祖聖人の自筆と寺傳されてゐるが、覺信あるひは信性の書寫とも云はれてをる。おそらく後者であらうと思ふ。書寫の樣態からみて聖人の筆ではないであらふと思ふ。また三河佐々木の上宮寺にも少くとも室町初期と思はれる寫本がある。それは『往相廻向還相廻向文類』と內題されてをる。その內容は『高田本』の『如來二種廻向文』とほゞ同樣である。大谷大學の圖書館には『宗祖御筆蹟集』なる寫本があつて、その中に『往相廻向還相廻向文類』と題するものが合綴されてをる。その內容は『上宮寺本』と全く一つであるが、中間三紙（六面）の缺失があると私は思ふ。これについて昭和三十一年の『印度學佛教學研究』第四卷第二號に、「影寫本宗祖御筆蹟集の書誌學的價値について」として一應の報告的な研究を發表した。從つて、この『大谷大學本』についての精細なる說明は略するが、たゞこの寫本は相當に注目すべき價値があると思ふ。

この寫本は「明治四十三年」に大谷大學圖書館が河內圓德寺所藏の寫本によつて、それを影寫したものであつて、この『圓德寺本』は奧書によると、惠空が影寫し所持したものである。この惠空の影寫本は、故藤原猶雪氏の藏書となつて現存する事を同氏より直接に聞いた事である。惠空影寫の底本は、もと西本願寺藏の宗祖の眞蹟本を影寫したものである事が示されてをる。かくて『大谷大學本』は、宗祖眞蹟本が轉々として影寫されたものであるから、その間に多少の誤脫等があるかもしれない。しかしこの影寫本なる『大谷大學本』を通してその原本を推測してみれば、原本は宗祖の自筆であつた事は一見して明かであると思ふ。

いまこの『大谷大學本』と『上宮寺本』の二廻向文類が、その本文・振假名・讀假名・年紀・宗祖の法諱・年齡等全く一致するのであるが、然れば『上宮寺本』は、單に室町初期の古寫本であるばかりでなく、その底本は宗祖自筆の原本に尤も近いものであることを知るのである。かくて『上宮寺本』の書誌學的な價値は、極めて高く買はるべきものとなるのである。

『大谷大學本』と『上宮寺本』を比較すると、『上宮寺本』は、筆寫の樣態に於て、いさゝか整理されてをるにすぎぬ。

『上宮寺本』と『高田本』とを比較すると、內容は同一の義を示してをるが、行文の脈絡は『上宮寺本』の方がすぐれてをるかの如くである。『高田本』の奧に「正嘉

元年丁巳壬三月廿一日書寫之」とあるのみで、宗祖聖人の法諱も年令も記載してをらぬ。『上宮寺本』には本文の末尾に「南无阿彌陀佛」と尊號を擧げ、その次に「康元元丙辰十一月廿九日　愚禿親鸞八十四歳書之」とする。これは宗祖聖人の筆書の例として完備した態を示してをる。それのみならず同一內樣と筆書の樣態を持つ『谷大本』が、影寫とは云へ、堂々たる宗祖の筆格を持つことによつて、愈々『上宮寺本』をして、價値あらしむるものではなからうか。『上宮寺本』はすでに德川時代より、尊重され學者の注意はうけて來たが、近時は『高田本』が餘りに高く買はれすぎるかの如くである。勿論『高田本』は少くとも宗祖の直弟によつて書寫され、顯智によつて伝持された。それはすでにそれだけにして絕大なる價値を持つのであるが、彼此對照し勘按すると、『上宮寺本』の價値にまた驚くのである。『大谷遺法纂彙』に『往還廻向文類』として揖錄されてをるものは、だいたい『上宮寺本』によつたものである。廣略二本の『三經往生文類』及『二廻向文類』の內容及本願についての呼稱等を精擦すれば、宗義上、深い示唆を受くるものあるを思ふ。

（昭和三十五年九月十八日）

○大谷大學本　『往相廻向還相廻向文類』

○上宮寺本　『往相廻向還相廻向文類』

○高田專修寺本　『如來二種廻向文』

◎大谷大學本

往相廻向還相廻向文類

往相廻向之文

無量壽經・優婆提舍願生偈曰・

云何廻向・不捨一切苦惱衆生・心

故・文

コノ本願力ノ廻向ヲモテ・如來

コノクワンハシヤウミヤウノクワンナリ

ノ廻向ニ二種アリ一ニハ・往相廻向・
二ニハ・還相廻向ナリ・往相廻向ニ・ツキ
テ・眞實ノ行業アリ・眞實ノ
信心アリ眞實證果アリ眞實
行業トイフハ諸佛稱名ノ悲願ニア
ラワレタリ稱名ノ悲願大經言 設我
得佛十方世界无量諸佛不悉
咨嗟稱我名者不取正覺 文
以本願力・廻向故是名出第五
門ト・イヘリ・又曰生彼國已還起
大悲・廻入生死・教化衆生・亦名
廻向也ト・イヘリ・コレハ・還相ノ・廻向
トキコエタリ・コノコヽロハ一生補處
ノ大願・アラワレタリ・大慈大悲ノ

誓願・ハ大經言・設我得佛・他方佛
土・諸菩薩衆來生我國究竟
必至・一生補處・除其本願・
自在所化・爲衆生故被弘誓
鎧・積累德本・度脱一切遊諸
佛國・修菩薩行・供養十方・
諸佛如來・開化恒砂・无量衆生・
使立无上・正眞之道超出常倫・諸
地之行・現前修習・普賢之德・若
不爾者・不取正覺・文コノ悲願ハ

如來ノ・還相廻向ノ・御チカヒナリ・
コレラヲ・如來ノ二種ノ廻向トマフス・
ナリ・他力ノ・往相還相ノ・廻向
ナレハ・自利利他トモニ・行者ノ・
願樂ニアラス大願ヨリ・自然・
ウルナリ・シカレハ他力ニハ・義
ナキヲモテ義トスト大師聖
人ハ・オホセコト・アリキ・ヨク〳〵・
コノ・選擇悲願ヲ・コヽロエタマフ
ヘシト

（注意）《一行切断サレテアリ。六字尊號アリシナラン》

康元元丙辰十一月廿九日
愚禿親鸞 八十四歳 書之

（注意）△音讀の振假名は墨書である。
△訓讀の假名は朱書である。側線を引けるは訓假名。
△カヘリ點・切句點は朱書である。

コノクワンハショウミヤウノクワンナリ

◎上宮寺本

往相廻向還相廻向文類
往相廻向之文

无量壽經優婆提舍願生偈曰・
云何廻向不捨一切苦惱衆生心常
作願廻向爲首得成就大悲心故文
∴
コノ本願力ノ廻向ヲモテ如
來ノ廻向ニ二種アリ一ニハ往相廻
向二ニハ還相廻向ナリ往相廻向
ニツキテ眞實ノ行業アリ眞實
ノ信心アリ眞實證果アリ眞實
行業トイフハ諸佛稱名ノ悲願ニ
アラハレタリ稱名ノ悲願大經言
設我得佛・十方世界・無量諸佛・
不悉咨嗟・稱我名者・不取正覺文
∴

コノクワンハ
マコトノ
シンノ
クワンナリ

コノクワンハ
シャウチャウ
シユニ
チユウ
カナラス
ムシヤウ
子チハン
ニイタ
ルヘキ
クワンナリ

眞實信心トイフハ念佛往生ノ
悲願ニアラワレタリ信樂ノ悲願
タイキヤウニノタマハクセチ カ トク フチ シフ ハウ シユ
大經言 設我得佛・十方衆
シヤウシ シムシンケウ ヨク シヤウ カ コク ナイシ シフ子セ
生・至心信樂・欲生 我國・乃至十念・
イタシテ シテオモフテウマレントワカクニ セム
ニヤク フ シヤウシヤ フ シユ シヤウカク ユイ チヨ コ キヤク
若不ニ生一者不取ニ正覺一唯除ニ五逆
モシ ス ムマレ ハ シトラ ノツクト トー
ヒ ハウシヤウホフ
誹謗正法一文
眞實證果トイフハ必至滅度ノ
悲願ニアラワレタリ證果ノ悲願
タイキヤウニノタマハクセチカ トクフチ コク チユウニテン フ
大經 言 設我得佛・國中人天・不下
シヤ フ シユ シヤウカク
チユチヤウ シユ ヒチシ メチト
住ニ定 聚一必至中滅度上者不ニ取ニ正覺一文
シ ニ カナラスイタラ ニ ハ シト シユ ヲ
コレラノ本誓悲願ヲ選擇本願
ホン セイ ヒ クワン センチヤクホンクワン
トマフスナリコレヲ往相廻向トマフ
ワウ サウ エ カウ
スナリコノ必至滅度ノ大願ヲオコシ
ヒチシ メチト タイクワン
タマヒテコノ眞實信樂ヲエタラム
シン シチ ケウ

コノクワンハ
シヤウチヤウ
シユニ
イタリ
タイネチ
ハンヲサトル
ヘキ
クワンナリ

人ハスナハチ正定聚ノクラヰニ
ヒト シヤウチヤウシユ
住セシメムトチカヒタマヘリ
チユ
同本異譯ノ无量壽如來會言
トウホン イ ヤク ムリヤウシユ ニヨ ライ ヱニ ノタマハク
若我成佛・國中有情・若不下決定・成ニ
モシワレ セムニクニノウチノ モシ ス シフ ナリ
等正覺一・證中大涅槃上者不ニ取正覺一文
トウシヤウカク セイ タイネチハン シヤ フ シユシヤウカク ハ シト トラ ヲ
コノ悲願ハスナワチ決定シテ等正
ヒクワン クヱチヤウ トウシヤウ
覺ニナラシメムトチカヒタマヘリトナリ
カク
等正覺トイフハスナハチ正定聚ノ
トウシヤウカク シヤウチヤウシユ
クラヰナリ等正覺トマフスハ補
トウシヤウカク フ
處ノ彌勒菩薩トオナシカラシ
ショ ミ ロク ホ サチ
メムトチカヒタマヘルナリシカレハ眞實
シン ケウ
信樂ノ念佛者ハ彌勒菩薩ト
チム フチ シヤ ミ ロク ホ サチ
オナシト龍舒淨土文ニハアラワ
リウ ショシヤウト モン
セリシカレハ大經ニハ次如ニ彌勒一
タイキヤウ シ ニヨ ミ ロク
ツイテコトシ
トノヘタマヘリコレラノ大願ヲ
タイクワン
往相廻向トマフストミエタリ
ワウ ソウ エ カウ

一シヤウフショノクワンシナリ

二ニハ還相廻向トイフハ浄土論曰
以ニ本願力ノ廻向一故是名ニ出第
五門一トイヘリ又曰生ニ彼國一已
還起ニ大悲一廻ニ入生死一教ニ化衆
生一亦名ニ廻向一也トイヘリコレハ
還相ノ廻向トキコエタリコノ
コヽロハ一生補處ノ大願ニアラワ
レタリ大慈大悲ノ誓願ハ
大經言設我得佛他方佛
土諸菩薩衆來ニ生我國一究
竟必至ニ一生補處一除下其本
願自在所化爲ニ衆生一故被ニ弘
誓鎧一積ニ累德本一度ニ脫一切

遊ニ諸佛國一修ニ菩薩行一供ニ養十
方諸佛如來一開ニ化恒砂无
量衆生一使下立中无上正眞之道一
超ニ出常倫一諸地之行現前
修ニ習普賢之德一若不ニ爾者一
不取ニ正覺一文コノ悲願ハ如來
ノ還相廻向ノ御チカヒナリ
コレラヲ如來ノ二種ノ廻向ト
マフスナリ他力ノ往相還相
ノ廻向ナレハ自利利他トモニ
行者ノ願樂ニアラス大願ヨ
リ自然ニウルナリシカレハ
他力ニハ義ナキヲモテ義ト
スト大師聖人ハオホセコト

アリキヨクヽヽコノ
選擇悲願ヲコヽロエ
タマフヘシト

南无阿弥陀佛

康元元丙辰十一月廿九日
愚禿親鸞八十四歳書之

（注意）
△音讀の振假名は墨書である。
△訓讀の假名は朱書―それには縦に側線を引いて判明ならしめた。
△カヘリ點及切句點は朱書である。

◎高田本

如來二種廻向文

無量壽經優婆提舍願生偈曰
云何廻向不捨一切苦惱衆生心常
作願廻向爲首得成就大悲心故　文

（上宮寺本）

コノ本願力ノ廻向ヲモテ如來ノ

△往相廻向
還相廻向ナリ往相廻向ニツキテ

△眞實證果アリ
△眞實行業トイフハ

△大經言設我得佛

廻向ニ二種アリ一ニハ往相ノ廻向
二ニハ還相ノ廻向ナリ往相ノ
廻向ニツキテ眞實ノ行業アリ
眞實ノ信心アリ眞實ノ證果アリ
眞實ノ行業トイフハ諸佛稱名
ノ悲願ニアラワレタリ稱名ノ悲願
大無量壽經ニノタマハク設我得佛
十方世界無量諸佛不悉咨嗟
稱我名者不取正覺　文
眞實信心トイフハ念佛往生ノ
悲願ニアラワレタリ信樂ノ悲願
大經ニノタマハク設我得佛十方
衆生至心信樂欲生我國乃至
十念若不生者不取正覺唯除五逆
訓誘正法　文
眞實ノ證果トイフハ必至滅度ノ悲願
ニアラワレタリ證果ノ悲願大經ニ

△眞實證果トイフハ
△大經言設我得佛

△コレラノ本誓悲願ヲ選擇本願トマフスナリコレヲ往相廻向トマフスナリコノ必至滅度ノ大願ヲ……

△スナハチ

△無量壽如來會言

△不取正覺文

△コノ悲願ハスナハチ決定シテ等證覺ニナラシメムト……

△等正覺トイフハスナハチ

△チカヒタマヘルナリシカレバ眞實信樂ノ

ノタマハク設我得佛國中人天不住定聚必至滅度者不取心覺文

△コレラノ本誓悲願ヲ選擇本願トマフスナリコノ必至滅度ノ大願ヲオコシタマヒテコノ眞實信樂ヲエタラム人ハ△スナワチ正定聚ノクラヰニ住セシメムトチカヒタマヘリ

同本異譯ノ△無量壽△如來會ニハノタマハク若我成佛國中有情若不決定成等正覺證大涅槃者不取菩提文

△コノ悲願ハスナワチ眞實信樂ヲエタル人ハ決定シテ等正覺ニナラシメムトチカヒタマヘリトナリ

等正覺ハスナワチ正定聚ノクラヰナリ等正覺トマフスハ補處ノ彌勒菩薩トオナシカラシメムトチカヒタマヘルナリコレラノ選擇本願ハ法藏

△念佛者ハ彌勒菩薩ノ不思議ノ弘誓ナリシカレバ眞實信心ノ念佛者ハ大經ニハ次如彌勒トノタマヘリコレラノ大誓願ヲ往相ノ廻向トマフストミエタリ彌勒菩薩トオナシトイヘリト龍舒淨土文ニアラワセリ

△舒曰淨土論曰

△二ニ還相廻向トイフハ淨土論曰以本願力廻向故是名△出第五門トコレハコレ還相ノ廻向ナリコノコヽロハ一生補生ノ大願ニアラワレタリ大慈大悲誓願ハ大經ニノタマハク設我得佛他方佛土諸菩薩衆來生我國究竟必至一生補生除其本願自在所化爲衆生故被弘誓鎧積累德本度脫一切遊諸佛國修菩薩行供養十方諸

△二ニ還相廻向トイフハ淨土論曰以本願力廻向故是名△出第五門トコレハコレ還相ノ廻向ナリコノコヽロハ一生補生ノ大願ニアラワレタリ

△念佛者ハ彌勒菩薩ノ不思議ノ弘誓ナリシカレバ眞實信心ノ念佛者ハ大經ニハ次如彌勒トノタマヘリコレラノ大誓願ヲ往相ノ廻向トマフストミエタリ彌勒菩薩トオナシトイヘリト龍舒淨土文ニアラワセリ

△舒曰淨土論曰

△二ニ還相廻向トイフハ淨土論曰以本願力廻向故是名△出第五門トコレハコレ還相ノ廻向ナリコノコヽロハ一生補生ノ大願ニアラワレタリ大慈大悲誓願ハ大經ニノタマハク設我得佛他方佛土諸菩薩衆來生我國究竟必至一生補生除其本願自在所化爲衆生故被弘誓鎧積累德本度脫一切遊諸佛國修菩薩行供養十方諸

△コノ悲願ハ如來

△コレ等ヲ如來ノ二種廻向ノ他力トマ

ナ還相廻向ノ他力ニハ往還ノ利他ノ廻向ノ利他トモニ行者ノ

ニリニモトナ
ハシ自アニモレ
義カ然ラ行ニハ
ナレニス者ノ還
キバウ大ノ行ノ相
ヲ他ル願者ノ自
力ナヨ願ノ利
樂ト他

△タマフヘシト

南无阿弥陀佛

康元元丙辰
十一月廿九日

佛如來開化恒沙無量衆
生使立无上正眞之道
超出常倫諸地之行現前
修習普賢之德若不爾者
不取正覺文△コレハ如來ハ
還相廻向ノ御チカヒナリ
△コレハ他力ハ還相廻向ナレハ
自利利他トモニ行者ハ
願樂ニアラス法藏
菩薩ハ誓願ナリ
他力ニハ義ナキヲモテ義トスト
大師聖人ハオホセコト
アリキヨク〳〵コノ
選擇悲願ヲコヽロエ
△タマフヘシ

正嘉元年丁巳三月廿一日書寫之

（尾題ナシ）

如來二種廻向文

（注意）高田本ト上宮寺本トノ本文ノ相違ヲ對比セリ、上段ハ上宮寺本ニシテ、下段ハ高田本ナリ、上宮寺本ノ本文ハソノ影印本ニヨリ、高田本ハ『親鸞聖人全集』ニヨル。